

徳之島3か町 関係者の皆様へ

ツマジロクサヨトウの防除対策

本書虫は海外飛来性の「ガ」であり、寄主範囲が広いとされている。

県内では、現時点で、飼料用トウモロコシ、スイートコーンで被害が確認されていることから、具体的な防除対策については以下の内容を参考とし、地域の状況や当該圃場の周辺環境に応じた対策をとることにより、的確な防除に努めていただきたい。

※ 徳之島3町では、7/10、7/16に関係機関で対策会議を開催し、3町共通した防除を行い「ツマジロクサヨトウ」のまん延防止に努めることとした。

① 収穫間近（収穫20日程前）のほ場

ア. 直ちに収穫、サイレージ化する。

適期収穫時期ではないことから、サイレージ調整時には、サイレージ発酵促進剤（乳酸菌製剤）を添加して調整する。

イ. 収穫後のほ場は、ほ場に落ちた幼虫や土中の蛹を防除するために、すみやかに2回耕耘する。可能ならば、プラウ耕で土を反転させた後耕耘し、幼虫や蛹を土中深くに埋めることで、さらに防除効果が高くなる。

ウ. 早期刈りの場合は、硝酸態窒素の濃度に留意が必要であり、給与する場合には給与量に注意し、施肥量が多く、葉色が濃いほ場の場合は、サイレージ化後に、硝酸態窒素量の測定を行い給与を実施する。

【※ 硝酸態窒素の分析は、徳之島事務所農業普及課（TEL 82-0323）で実施可能】

エ. 被害が見られないほ場でも、出来るだけ早期に収穫、サイレージ化する。

なお、今後、ツマジロクサヨトウの発生の可能性もあるので、収穫後は、被害のあるほ場と同様、すみやかに2回耕耘する。

② 草丈が低く、出穂前のほ場

ア. トウモロコシ生育ステージが「出穂前」（5/中旬以降の播種）で、草丈が低い場合（1m未満）は、ロータリー等ですき込み、再度（2回目）耕耘する。

イ. 被害株率が2割以上となるほ場では、「すき込み」が望ましいが、被害が軽微なほ場で、薬剤散布が可能なほ場では、農薬による防除「パダンSG水溶剤」を散布する。

＜パダンSG水溶剤について＞

本剤は、飼料用トウモロコシのアワノメイガに対して、倍率1,000倍、収穫前日数21日前まで、使用回数2回までとして登録されており、植物防疫法第29条第一項の規定により使用が可能となっている。

※ スミチオン乳剤は収穫30日前までなら使用可能である。

※ 補助事業による助成を受ける場合、薬剤の購入や作業の委託日、費用の分かる書き物、領収等の書類、ほ場ごとの収穫・すき込み前後等の写真保存が不可欠である。

ツマジロクサヨトウ写真と特徴

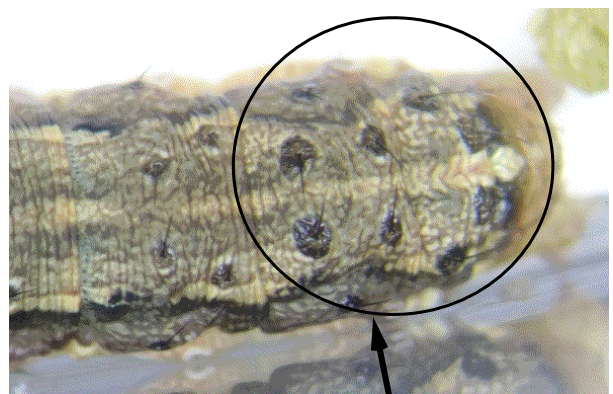


(頭部拡大)

(尾部拡大)



① 頭部に Y の字模様が見られる



② 尾部に左右対称の大きめの
斑点 (他にも背部に小さい斑点)

(写真：鹿児島県病害虫防除所撮影)

トウモロコシ食害状況



成長点（出穂前の雄花部分）には、幼虫の食害痕や、ふんが多数見られる。

葉の展開前に、食害された際には、虫の食害穴が規則正しく並んだり、葉や雄花が垂直にかじられている。

（写真：鹿児島県病害虫防除所，徳之島事務所農業普及課撮影）

(参考資料)

飼料用トウモロコシを加害する害虫 (既存の害虫として知られているもの)

< アワノメイガ >



< ハスモンヨトウ >



【写真：鹿児島県病害虫防除所撮影】

※ツマジロクサヨトウとの区別をする際の参考としてください。